

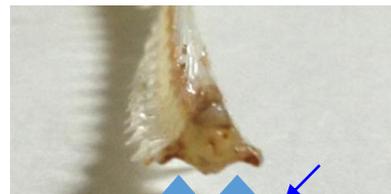
取扱説明書

(ピンキスローラー)

ピンキスローラーは、文字通りピンキスを捌くために作られたものです。ピンキスは普通の捌き方では困難な面が多かったのですが、このピンキスローラーはキスが小さければ小さいほど威力を発揮します。以下にピンキスの「腹開き」のコツについて紹介致していきます。

【キス骨の構造】

まずはキスの骨の構造を知り尽くすことが必要です。頭の中にキスの骨がどのように配列されているのかを描けるようになることをお勧めします。これを知ること、何故か、捌くのが楽しくなりますので、とても大事だと思います。(ホームページで骨構造の写真集もあります。)



【ローラーの掛け方】

キスにローラーを掛けていきます。ローラー掛けのスタート位置は、頭側切断端部から1cmくらいの位置から一旦は頭の方に一度転がして軽く潰しをいれてください。いきなり切断端部から始めると安定しません。次に、改めて、今度は頭側切断端部から尻尾側にローラーを掛けます。

腹部の背骨は三角形になっていて、右上写真の背骨形状を想像しながら、その三角形の背骨形状をレールにしてローラー溝を当てて押さえ込みながら転がして身から骨を剥がしつつ、骨を下方に沈ませていくと腹開き出来ます。

(ローラーを掛けると骨の中の血が出やすいです。気になる方は最後に洗ってください。)

キスのシッポ側になると「ひし形の平ぺったい骨」の部位に突入します。同じようにローラーで押さえ込んで身から剥がしつつ骨を下方に沈ませていくことで腹開きされていきますが骨が倒れやすいためキスを外から指で倒れないようにしっかり支えつつローラーを掛けていきます。特に小さいキスはしっかり支えながらローラー掛けします。

【骨の剥がし取り】

腹開きされたキスには骨が残っているため、骨を掴んで剥ぎ取ります。すでにローラー掛けで身とは引き離されていますので簡単に取り除けます。

【追記】

ピンキスローラーは、小型キス用ですが、中型キス用では「極細キス専用ナイフ」を開拓していません。中型キス以上を対象に水を使わないで捌く「キスの無水捌き」という面白い捌き方が可能になります。この器具は中型キスを捌くのが主体の捌き具になります。この場合も、キスの骨構造や、身の繊維方向や、身と腹膜の位置関係などを理解してから捌くのは意外と楽しいのでお勧めします。

【動画】

動画は HP もしくは youtube(検索用語: domptime ピンキス捌きスプーン)で紹介しています。